

## 〔東京桑野会〕

### 45期彫刻家

### 佐藤静司先輩訪問記

東京桑野会

#### 高松 ゆたか

(七十四期)

総会準備の役員会もそろそろお開きの頃「高松クーン」と古川清会長の呼ぶ声。「100歳になられた彫刻家の先輩が、現役で作品を制作中とのこと……お訪ねして、現況を取材したらどうか……」

発端は、古川会長の隣に同席されていた71期の武藤勇司さんからのさりげないお話からで、100歳！ 現役！ お元気！ に胸を打たれたらしく、「取材！」の命が下りました。

早速、その場で心当たりで佐藤静司先輩訪問の呼びかけをして、後日改めて日取りの調整と御都合を伺ったところ、万難を排した志願者は5名になりました。

71期武藤勇司さん、74期高松ゆたか、76期平田勝也さん、78期宗像良保さん、88期大矢真弘さん。加えて特別御参加の先の東京花かつみ会長高崎千鶴子さん、以上の6名に決まりました。

た。

100歳……されど100歳。100歳の声は、今ではよく聞く話ですが、わが身に重ねてみるとやはり100名山の峠を越えられるか否かは……ただ厳粛な思いに駆られるばかりです。

100歳の先輩宅に電話をして都合を伺いました。お元気といえども御本人の応答は果たして……

恐らく代わりの方が……呼び鈴2く3回がして「お名前をおっしゃって下さい」「はい、私は東京桑野会の高松です」「はい、私が佐藤です。御用件は？」

「桑野会の5く6名で先輩をお訪ねしたいのですが……よろしくお願い致します」「4月中にお訪ねしたいのですが御都合はいかがでしょうか？」「4月19日の他ならいいですよ」「わかりました。近日中にまた電話をさせて下さい」「ああ、いいよ。用事らしいこともないから日にちと時間を知らせて下さい」

電話で応答が出来る。静かだが明快な会話が出来た。自分の思いすごしに、申し訳のない思いの反省が過ぎました。10代から歩まれた100歳の芸術家佐藤静司大先輩にエールを送りつつ、お会いする楽しみが数倍に膨れ上がりました。

同行の宗像良保さんは、会社勤めの頃、世田谷区尾山台に住まわっていて土地勘があり東急大井町線尾山台駅の集合位置から佐藤先輩のお宅

までの道筋を下調べしておいてくれたので助かりました。それと言うのも本業のジャーナリストの習性からかもしれませんね。

定刻の13時尾山台駅から6名で、先生宅に向かいました。大きな通りを横断すると、ゆるく下る斜面に緑を多く感じる住宅街になっていました。

20分も歩くと先輩のお宅に付きました。玄関に向かうと裏から入ってしまったらしく、家人の男の人から「正面からお入り下さい」と声を掛けられてしまいました。玄関に回り、初めて先輩のお宅を訪ね、お会いする事が出来ました。

私の第一印象は「仕事（彫刻）に打ち込む方」「欲のない方」でした。お住まいには先ほどの御声の主の御長男の方と御一緒に生活をされておりましたがその御様子から、その質素な日常が見て取れました。おもてなしを頂いた御茶や茶器やお茶菓子からさえ、「飾らない」「控えめ」。その雰囲気の中で、創作の意欲と情熱と継続性だけは、話し言葉に鮮明でした。

記念の集合写真を撮影したお部屋の飾り棚に、木彫のひな人形がお座りをしていました。こけし人形がお雛様に変身したかのような素材さで私は手にとって、ナデナデしてしまいました。なぜか福島の土の匂いを感じたものでした。

今は、年に1個だけ制作する事になっていると言う。アトリエの見学を申し出たところ「いいよ」と即座にお立ちになって、廊下左手の突き当たりの部屋を見せて頂きました。アトリエは、さすがに、アトリエ。天井の高い日差しが安定したお部屋で、教室の半分くらいの広さを感じました。制作は、立ち仕事用の台座で、赤粘土で人体頭部の制作中でした。佐藤忠良先生を思わせる自然を観察して学ぶ自然体で、生き生きさを感じる像でした。

2時間もお邪魔して、記憶に残る先輩の言葉の一言。「元気の秘訣なんてないよ……普通に生活してきただけだよ……」の無理をしないで来られたそのままの教えでした。

「先輩、校歌覚えてますか?」「覚えてるよ」。同行の大矢応援団長の出番、指揮により、佐藤静司先輩宅の質素な木造の玄関で帰り際、先輩は上がりかまち辺りで、ニコニコしてお立ちのまま、私たちは、たたきに立ち先輩に正対して、深く静かに校歌を歌い、再開を約しました。

ご一緒していただいた高崎さんから取材終了後のその日のメール。

「本日は、思いがけないお誘いで、佐藤静司先生訪問のお仲間に入れて頂きましてありがとうございます

ございました。郡山で先生の作品に接する機会があったはずなのに、作家のお名前までは、知らないままでした。今日はたくさんの作品を見せて頂き、近しくも御話も伺うことが出来て、急に私にとって身近な存在になりました。折に触れ今日の出来事を、吹聴することになりそうです。桑野会の優秀な方々の飾らないお人柄に触れる事が出来たこともとても嬉しい出来事でした。(少し略)……お礼までにて」

佐藤静司先輩訪問に参加された皆さんとともに、先輩の更なる作品の前進と発展と、ご健康を祈念して結びとさせていただきます。



撮影 平田勝也氏 (76期)

佐藤先輩 (45期) を囲み、後列左より宗像良保 (78期)、高崎千鶴子 (花かつみ会)、大矢真弘 (88期)、武藤勇司 (71期)、高松ゆたか (74期)、平田勝也 (76期) の諸氏